

天声人語

おととい改造があった新内閣のうたい文句は「安定と挑戦」だそうだ。どっしり構えてことに挑む。何ごともそうありたいものだが、ニュースを追っていたら別の言葉が頭に浮かんできた。「引き際」と「焦燥」である▼安倍首相の自民党総裁としての任期は、残り2年。その「引き際」を意識するからこそ、側近議員たちを一気に入閣させたのだろう。退任が見えてきた社長が「尽くしてくれた君らを、みんな役員にしてくれる」とでも言うかのように▼側近の一人で、加計学園の問題で名前の出た萩生田光一氏を、こともあろうに文部科学相にした。国会での集中砲火を危ぶむ声が党内にもあるというが、意に介さないのが我が首相である▼改造後の会見で首相は憲法改正を「必ずや成し遂げていく」と語った。心中を察するに「焦燥」が募っているのではないか。政権として成し遂げた大仕事のことをレガシー（遺産）というが、安倍政権の場合、いまだ見当たらないのだ▼拉致問題も北方領土問題も進展がない。このままでは、ただ長いだけの政権になってしまう。小泉進次郎氏の入閣も、その文脈で見るとべきかもしれない。これで支持率が上がれば衆院を解散し、勝って改憲に勢いをつける……考えすぎだろうか▼首相の発言でもう一つ目立ったのは、社会保障のあり方を「大胆に構想する」というものだ。参院選で背を向けた年金問題などに、本腰を入れるのか。焦燥感を持って臨んでほしいのは憲法ではなく、こちらである。